

RESAS を使った美里町・涌谷町の分析

2022年10月

遠田商工会

<目 次>

はじめに	1
1. 人口推移・人口ピラミッド	2
2. 地域経済循環図	6
3. 産業構造マップ	14

～はじめに～

この度遠田商工会では、RESAS を活用した「人口推移・人口ピラミッド」、「地域経済循環図」、「産業構造マップ」について、美里町・及び涌谷町の分析を行いましたので、ご活用ください。

<RESAS とは>

経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が無料で提供する産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムです。

RESAS : <https://resas.go.jp/>

1. 人口推移・人口ピラミッド

<人口推移>

○美里町・涌谷町共に総人口、年少人口、生産年齢人口は減少傾向にあり、宮城県と比較すると、両町ともにその速度は急激なものとなっている。

○老年人口は全体的に上昇傾向にあり、美里町・涌谷町においては2045年推計によると老年人口と生産年齢人口がほぼ同数になる。

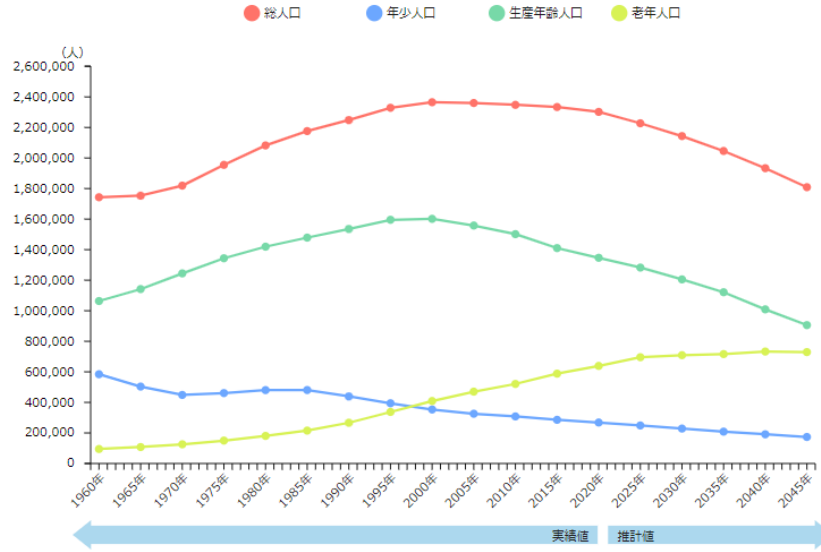
<人口ピラミッド>

○2020年と2045年を比較すると、老年人口の増加と、生産年齢人口、年少人口の減少が進んでいるのがわかる。

○美里町と涌谷町においては、2045年には生産年齢人口、年少人口共に半数近くまで減少する推計が出ている。

人口推移

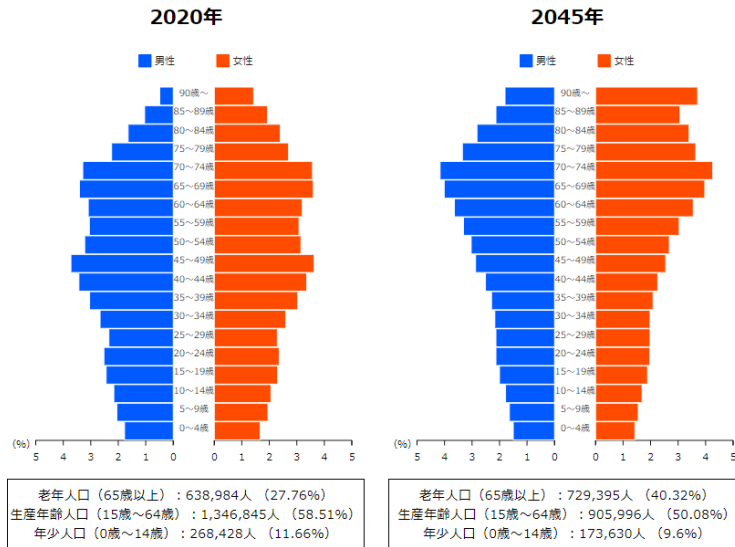
宮城県



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

人口ピラミッド

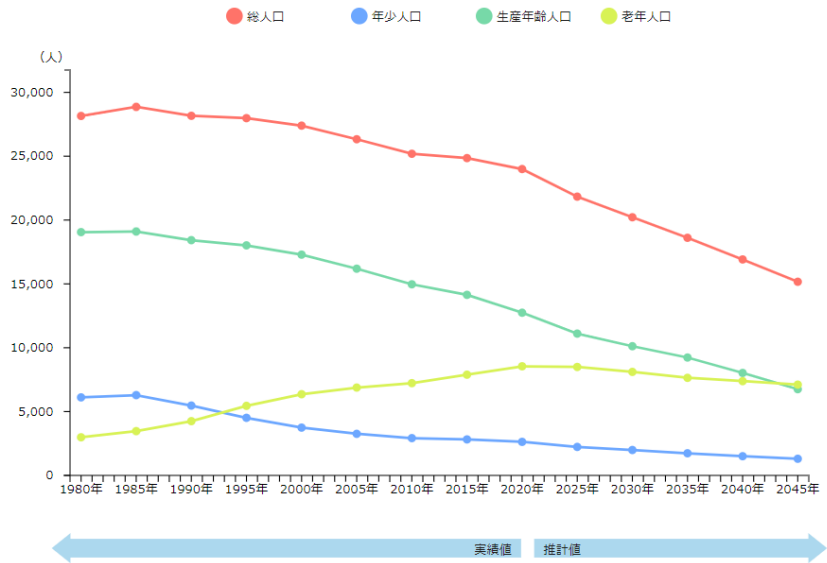
宮城県



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

人口推移

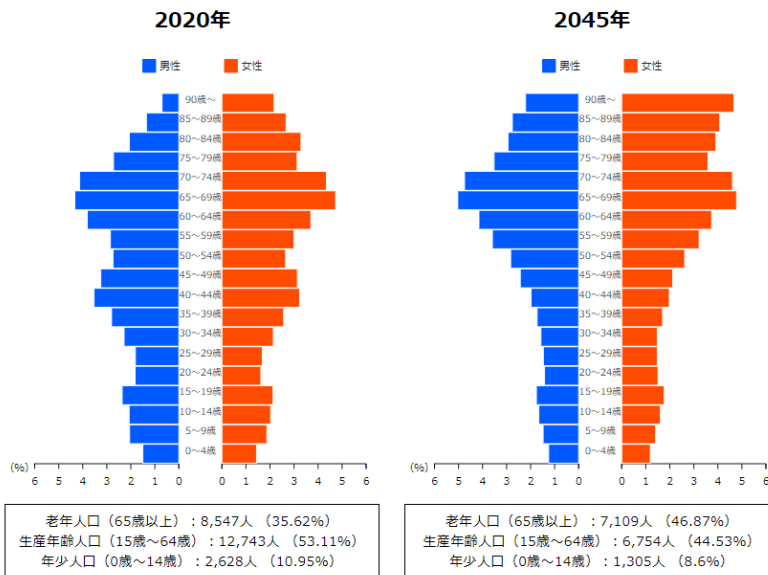
宮城県美里町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

人口ピラミッド

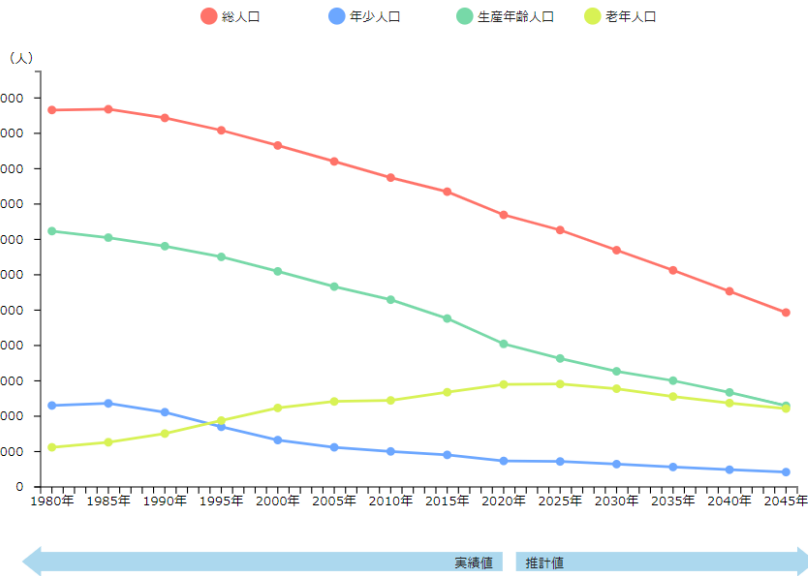
宮城県美里町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

人口推移

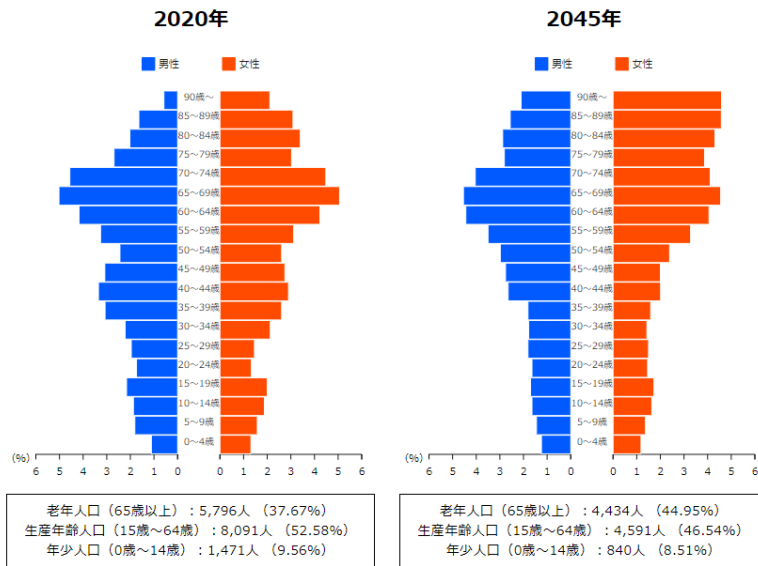
宮城県涌谷町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

人口ピラミッド

宮城県涌谷町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
【その他の留意点】+

2. 地域経済循環図

～「地域経済循環率」とは～

生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

また、ここでは環境省が提供している経年変化版地域経済循環分析自動作成ツールによる分析結果も掲載する。（ <https://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html> ）

○両町の地域経済循環率を宮城県と比較すると、美里町は低く、涌谷町は高い。

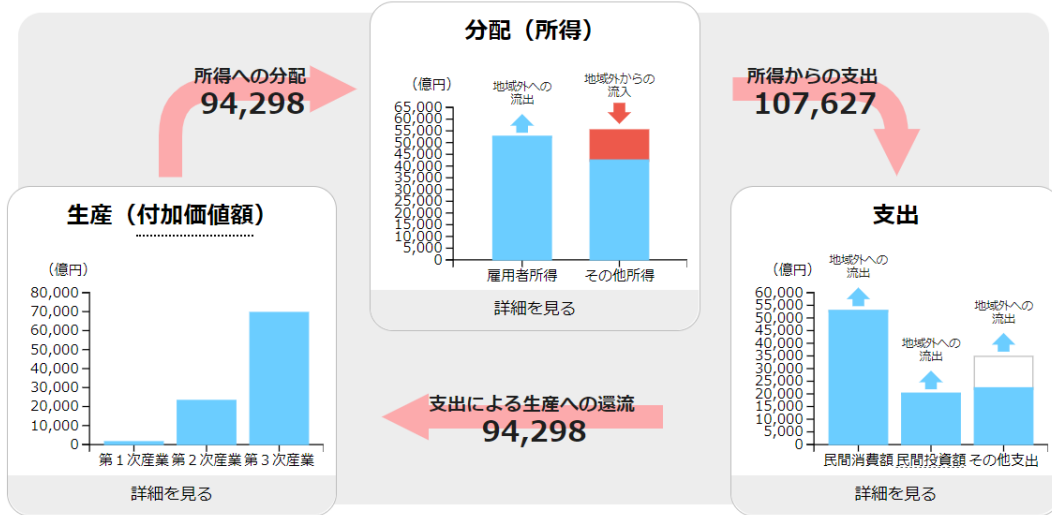
○美里町では第3次産業が、涌谷町では第2次産業が最も付加価値額を生み出している。

宮城県

地域経済循環率
87.6%

地域経済循環図 2018年

指定地域：宮城県



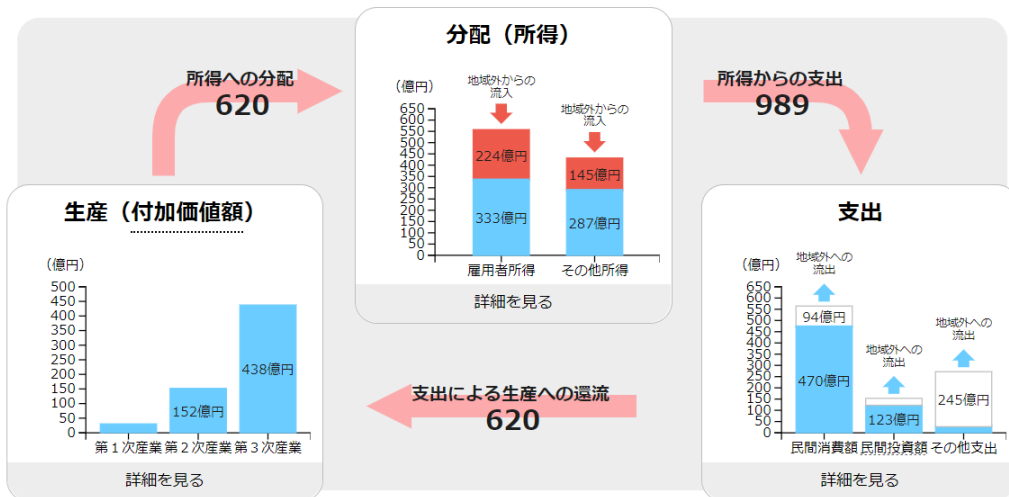
【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

美里町

地域経済循環率
62.7%

地域経済循環図 2018年

指定地域：宮城県美里町



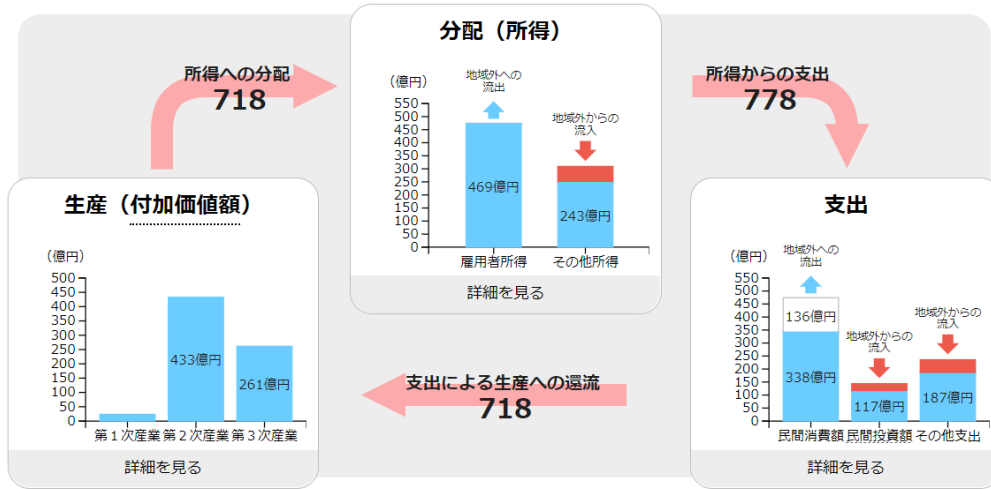
【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

涌谷町

地域経済循環率
92.3%

地域経済循環図 2018年

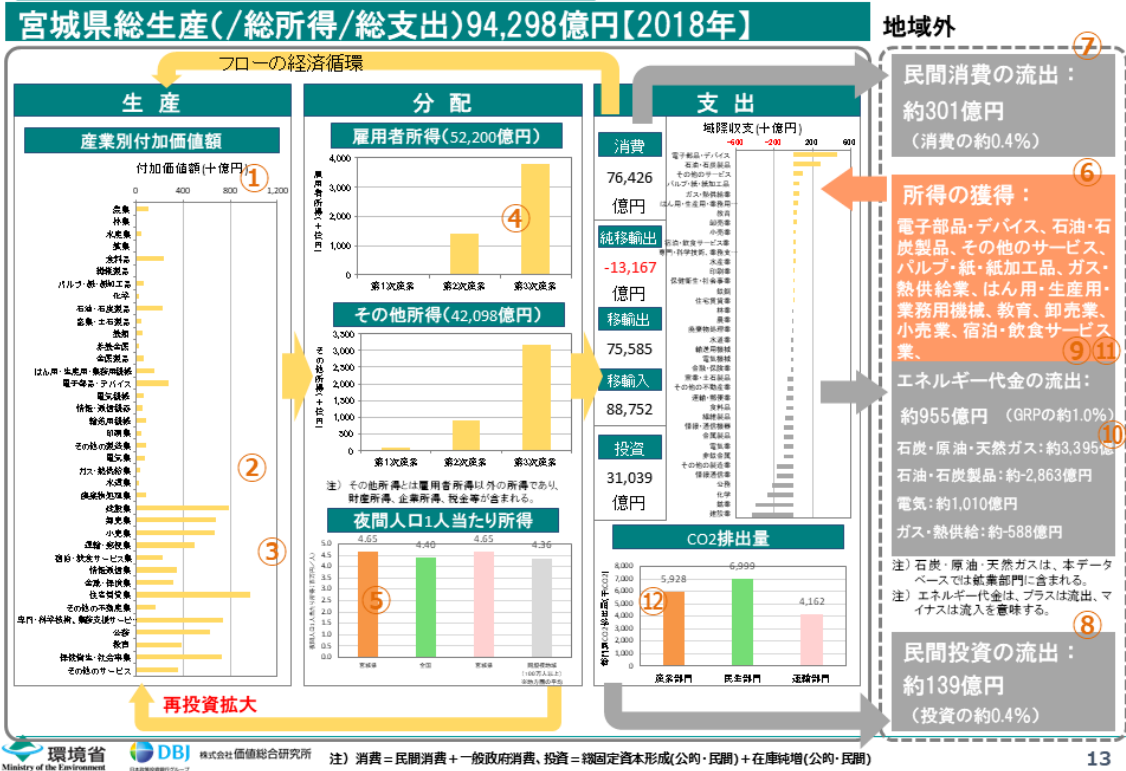
指定地域：宮城県涌谷町



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

宮城県

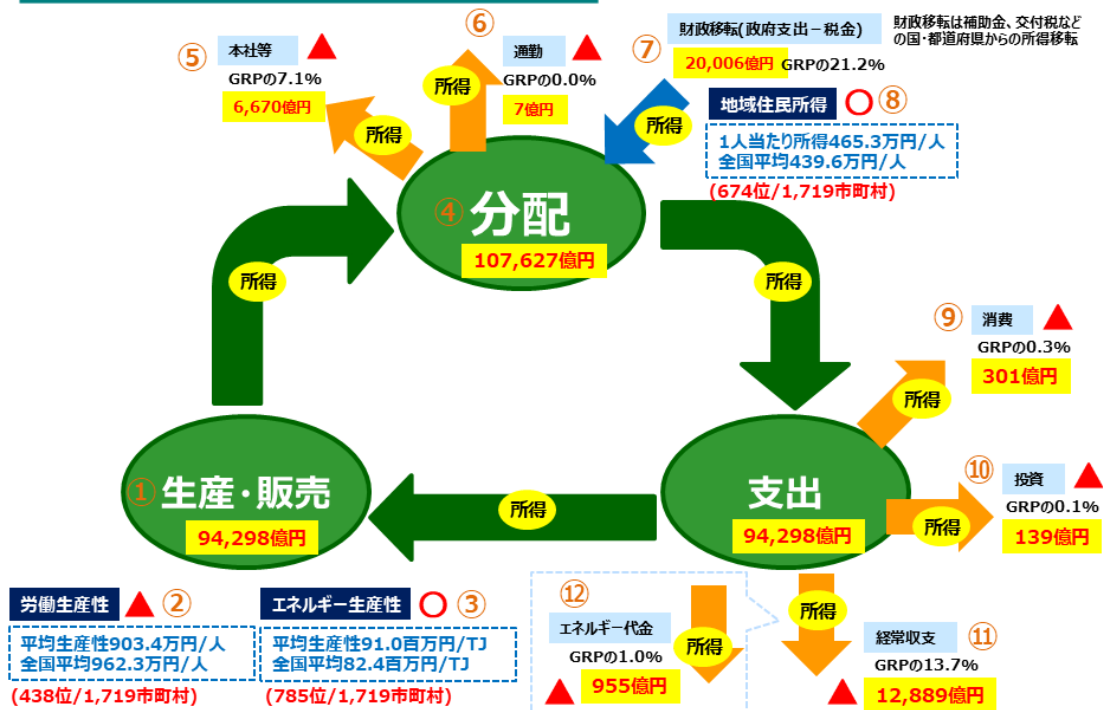
地域の所得循環構造①：2018年



地域の所得循環構造①：2018年

	地域の特徴	分析内容
生産	①宮城県では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでいる産業である。 ②第2次産業では、建設業が最も付加価値を稼いでおり、次いで電子部品・デバイス、食料品が付加価値を稼いでいる産業である。 ③第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで専門・科学技術、業務支援サービス業、保健衛生・社会事業が付加価値を稼いでいる産業である。	■ 域内の事業所が1年間に域内でどれだけ付加価値を稼いだか ■ 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である ■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か
分配	④宮城県では、第3次産業の雇用者所得への分配が最も大きい。 ⑤宮城県の夜間人口1人当たりの所得は4.65百万円/人であり、全国平均と比較して高い水準である。	■ 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か ■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か
支出	⑥宮城県では、電子部品・デバイス、石油・石炭製品、その他のサービスが域外から所得を稼いでいる。 ⑦消費が域外に流出しており、その規模は地域住民の消費額の1割未満である。 ⑧投資は域外に流出しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の1割未満である。	■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか ■ 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか ■ CO2がどの部門からどれだけ排出されているか
エネルギー・CO2	⑨宮城県では、エネルギー代金が955億円域外に流出しており、その規模はGRPの約1.0%である。 ⑩エネルギー代金の流出では、石炭・原油・天然ガスの流出額が最も多く、次いで電気の流出額が多い。 ⑪宮城県の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約5.90倍である。 ⑫宮城県のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち民生部門が最も多く、6,999千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は7.39tCO2/人であり、全国平均と比較して低い水準である。	

地域の所得循環構造②：2018年

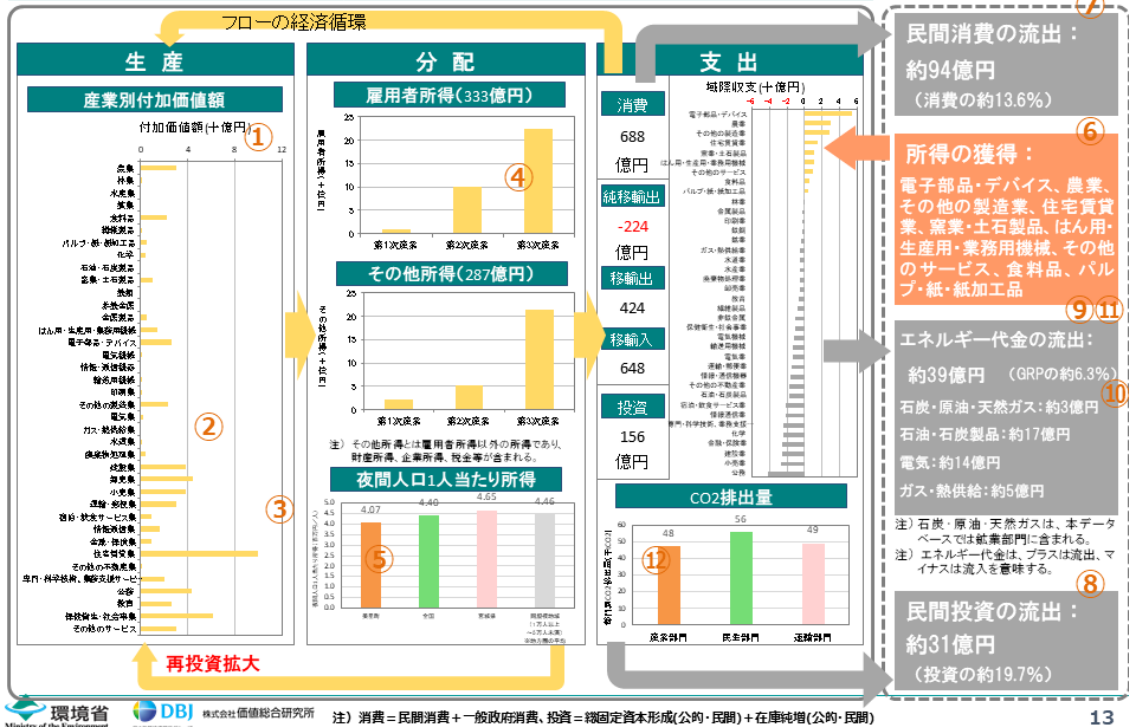


地域の所得循環構造②：2018年

	地域の特徴	分析内容
生産販売	①宮城県では、94,298億円の付加価値を稼いでいる。 ②労働生産性は903.4万円/人と全国平均よりも低く、全国では438位である。 ③エネルギー生産性は91.0百万円/TJと全国平均よりも高く、全国では785位である。	■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか ■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である
分配	④宮城県の分配は107,627億円であり、①の生産・販売94,298億円よりも大きい。 ⑤また、本社等への資金として6,670億円が流出しており、その規模はGRPの7.1%を占めている。 ⑥さらに、通勤に伴う所得として7億円が流出しており、その規模はGRPの0.0%を占めている。 ⑦財政移転は20,006億円が流入しており、その規模はGRPの21.2%を占めている。 ⑧その結果、宮城県の1人当たり所得は465.3万円/人と全国平均よりも高く、全国で674位である。	■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か ■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか ■ 財政移転はどの程度か
支出	⑨宮城県では買物や観光等で消費が301億円流出しており、その規模はGRPの0.3%を占めている。 ⑩投資は139億円流出しており、その規模はGRPの0.1%を占めている。 ⑪移出入では12,889億円の流出となっており、その規模はGRPの13.7%を占めている。	■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か ■ 消費や投資が域内に流入しているか否か ■ 移出入で所得を稼いでいるか否か
エネルギー	⑫宮城県では、エネルギー代金が域外へ955億円の流出となっており、その規模はGRPの1.0%を占めている。	■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか

地域の所得循環構造①：2018年

美里町総生産(総所得/総支出)620億円【2018年】

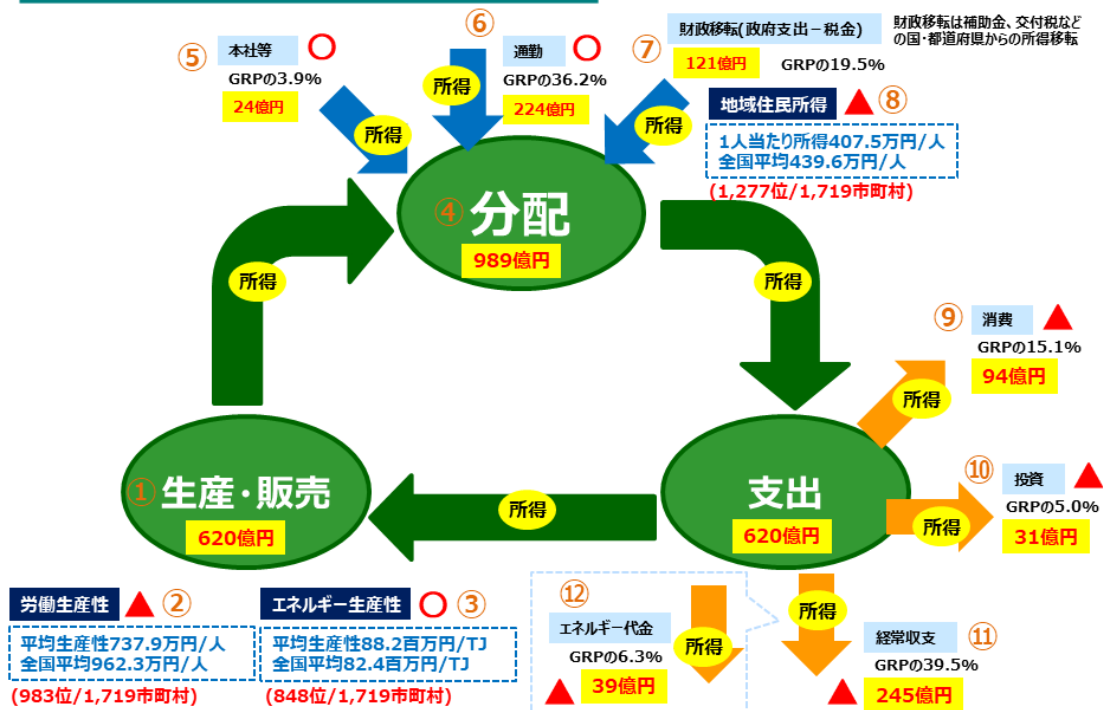


地域の所得循環構造①：2018年

	地域の特徴	分析内容
生産	<p>①美里町では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>②第2次産業では、建設業が最も付加価値を稼いでおり、次いで電子部品・デバイス、その他の製造業が付加価値を稼いでいる産業である。</p> <p>③第3次産業では、住宅賃貸業が最も付加価値を稼いでおり、次いで保健衛生・社会事業、卸売業が付加価値を稼いでいる産業である。</p>	<p>■ 域内の事業所が1年間に域内でどれだけ付加価値を稼いだか</p> <p>■ 付加価値とは、売上から原材料を除いた売上総利益である</p>
分配	<p>④美里町では、第3次産業の雇員所得への分配が最も大きい。</p> <p>⑤美里町の夜間人口1人当たりの所得は4.07百万円/人であり、全国平均と比較して低い水準である。</p>	<p>■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か</p>
支出	<p>⑥美里町では、電子部品・デバイス、農業、その他の製造業が域外から所得を稼いでいる。</p> <p>⑦消費が域外に流出しており、その規模は地域住民の消費額の1割程度である。</p> <p>⑧投資は域外に流出しており、その規模は地域住民・事業所の投資額の2割程度である。</p>	<p>■ 域内の産業で、域外から所得を稼いでいる産業は何か</p> <p>■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か</p>
エネルギー・CO2	<p>⑨美里町では、エネルギー代金が39億円域外に流出しており、その規模はGRPの約6.3%である。</p> <p>⑩エネルギー代金の流出では、石油・石炭製品の流出額が最も多く、次いで電気の流出額が多い。</p> <p>⑪美里町の再生可能エネルギーのポテンシャルは、地域で使用しているエネルギーの約3.78倍である。</p> <p>⑫美里町のCO2排出量は、産業、民生、運輸部門のうち民生部門が最も多く、56千tCO2である。夜間人口1人当たりのCO2排出量は6.31tCO2/人であり、全国平均と比較して低い水準である。</p>	<p>■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか</p> <p>■ 域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか</p> <p>■ CO2がどの部門からどれだけ排出されているか</p>

注) 再生可能エネルギーのポテンシャルは、環境省「再生可能エネルギー情報提供システム」(REPOS(リーボス))における住宅用等太陽光、公共系等太陽光、陸上風力、洋上風力、中小水力(河川部)、地熱のデータを用いており、市町村単位のデータがない公共系等太陽光、洋上風力は市町村単位に集約した結果を用いている。

地域の所得循環構造②：2018年



地域の所得循環構造②：2018年

	地域の特徴	分析内容
生産販売	①美里町では、620億円の付加価値を稼いでいる。 ②労働生産性は737.9万円/人と全国平均よりも低く、全国では983位である。 ③エネルギー生産性は88.2百万円/TJと全国平均よりも高く、全国では848位である。	■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか ■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である
分配	④美里町の分配は989億円であり、①の生産・販売620億円よりも大きい。 ⑤また、本社等への資金として24億円が流入しており、その規模はGRPの3.9%を占めている。 ⑥さらに、通勤に伴う所得として224億円が流入しており、その規模はGRPの36.2%を占めている。 ⑦財政移転は121億円が流入しており、その規模はGRPの19.5%を占めている。 ⑧その結果、美里町の1人当たり所得は407.5万円/人と全国平均よりも低く、全国で1,277位である。	■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か ■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか ■ 財政移転はどの程度か
支出	⑨美里町では買物や観光等で消費が94億円流出しており、その規模はGRPの15.1%を占めている。 ⑩投資は31億円流出しており、その規模はGRPの5.0%を占めている。 ⑪移出入では245億円の流出となっており、その規模はGRPの39.5%を占めている。	■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か ■ 消費や投資が域内に流入しているか否か ■ 移出入で所得を稼いでいるか否か
エネルギー	⑫美里町では、エネルギー代金が域外へ39億円の流出となっており、その規模はGRPの6.3%を占めている。	■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか

地域の所得循環構造②：2018年



地域の所得循環構造②：2018年

	地域の特徴	分析内容
生産販売	① 涌谷町では、718億円の付加価値を稼いでいる。 ② 労働生産性は1,102.6万円/人と全国平均よりも高く、全国では163位である。 ③ エネルギー生産性は99.6百万円/TJと全国平均よりも高く、全国では639位である。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか ■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である
分配	④ 涌谷町の分配は778億円であり、①の生産・販売718億円よりも大きい。 ⑤ また、本社等への資金として8億円が流入しており、その規模はGRPの1.1%を占めている。 ⑥ さらに、通勤に伴う所得として6億円が流出しており、その規模はGRPの0.8%を占めている。 ⑦ 財政移転は58億円が流入しており、その規模はGRPの8.1%を占めている。 ⑧ その結果、涌谷町の1人当たり所得は485.4万円/人と全国平均よりも高く、全国で538位である。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か ■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか ■ 財政移転はどの程度か
支出	⑨ 涌谷町では買物や観光等で消費が136億円流出しており、その規模はGRPの18.9%を占めている。 ⑩ 投資は27億円流入しており、その規模はGRPの3.7%を占めている。 ⑪ 移出入では49億円の流入となっており、その規模はGRPの6.8%を占めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か ■ 消費や投資が域内に流入しているか否か ■ 移出入で所得を稼いでいるか否か
エネルギー	⑫ 涌谷町では、エネルギー代金が域外へ43億円の流出となっており、その規模はGRPの5.9%を占めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー代金の支払いによって、住民の所得がどれだけ域外に流出しているか

3. 産業構造マップ

～産業構造マップとは～

自地域の企業数や事業所数、従業者数等が業種別に表示され、他地域と比較することで、自地域の業種別の強み・弱みや現在の立ち位置（水準）を把握でき、これにより自地域における強みがある産業が特定できる。ここでは付加価値額について分析を行った。

※付加価値額は下記の通り求めた数値。

売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課（費用総額＝売上原価＋販売費及び一般管理費）

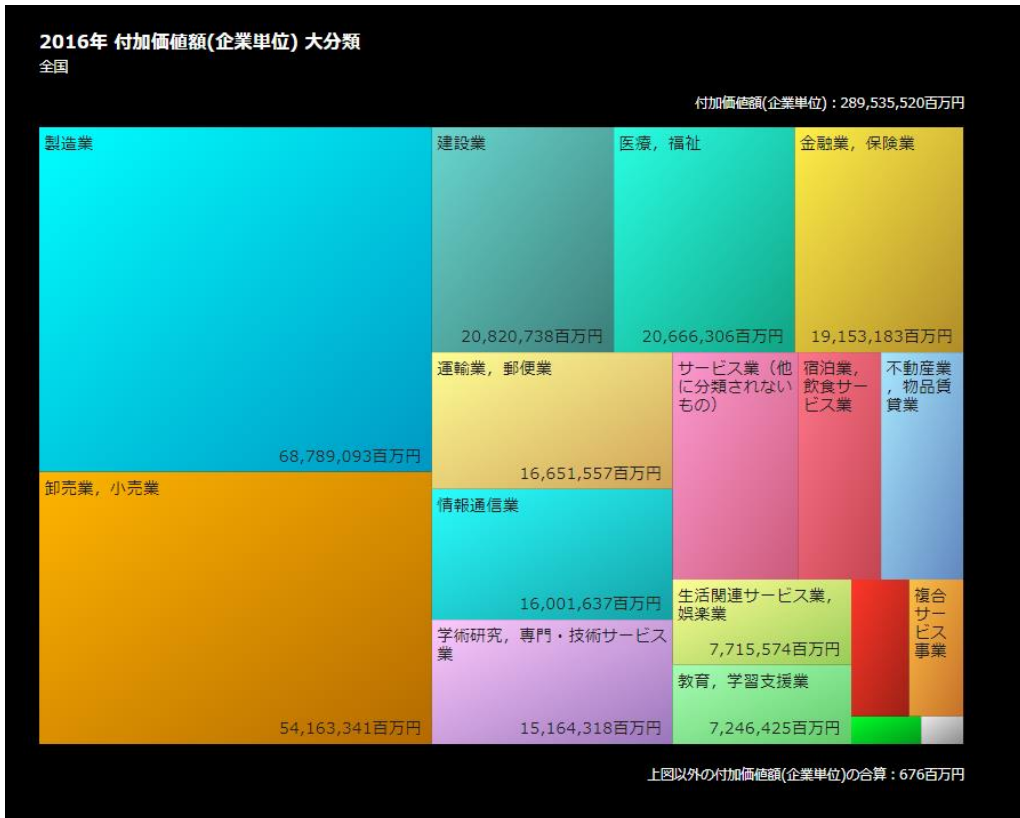
◎付加価値額が高い業種は、全国、宮城県、美里町、涌谷町それぞれで下記の通り。

<大分類>

	全国	宮城県	美里町	涌谷町
1位	製造業	卸売業、小売業	製造業	製造業
2位	卸売業、小売業	製造業	卸売業、小売業	卸売業、小売業
3位	建設業	建設業	医療、福祉	医療、福祉

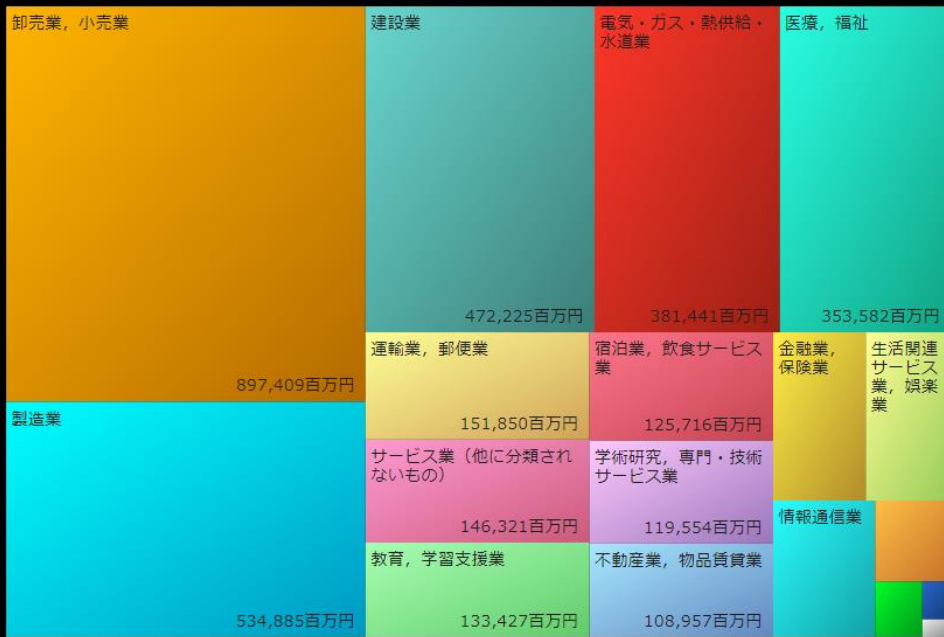
<中分類>

	全国	宮城県	美里町	涌谷町
1位	医療業	電気業	ゴム製品製造業	金属製品製造業
2位	総合工事業	医療業	医療業	総合工事業
3位	輸送用機械器具製造業	総合工事業	飲食料品小売業	医療業



2016年 付加価値額(企業単位) 大分類 宮城県

付加価値額(企業単位) : 3,766,835百万円



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 0百万円

2016年 付加価値額(企業単位) 中分類 宮城県

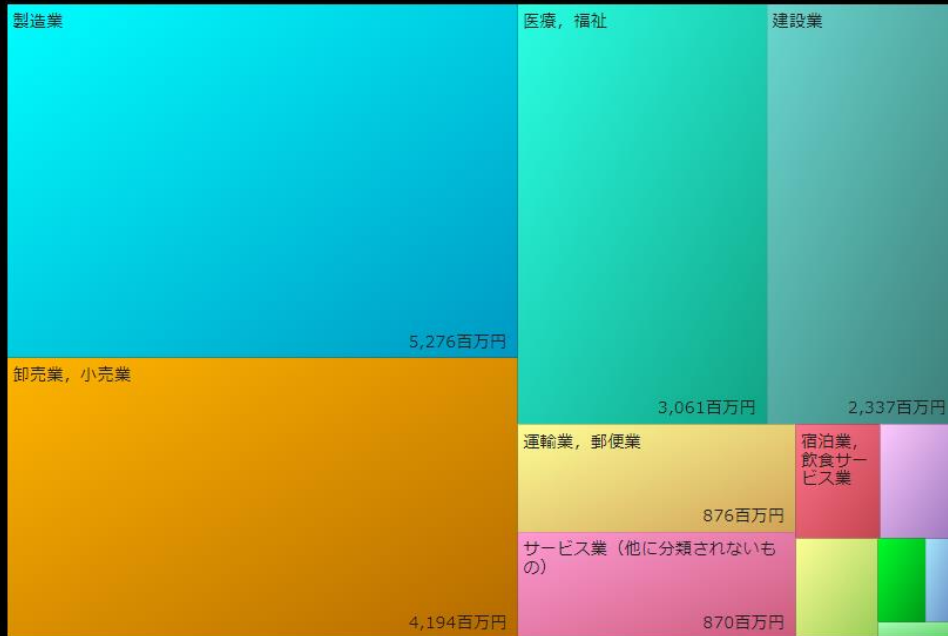
付加価値額(企業単位) : 3,766,835百万円



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 1,110,226百万円

2016年 付加価値額(企業単位) 大分類 宮城県美里町

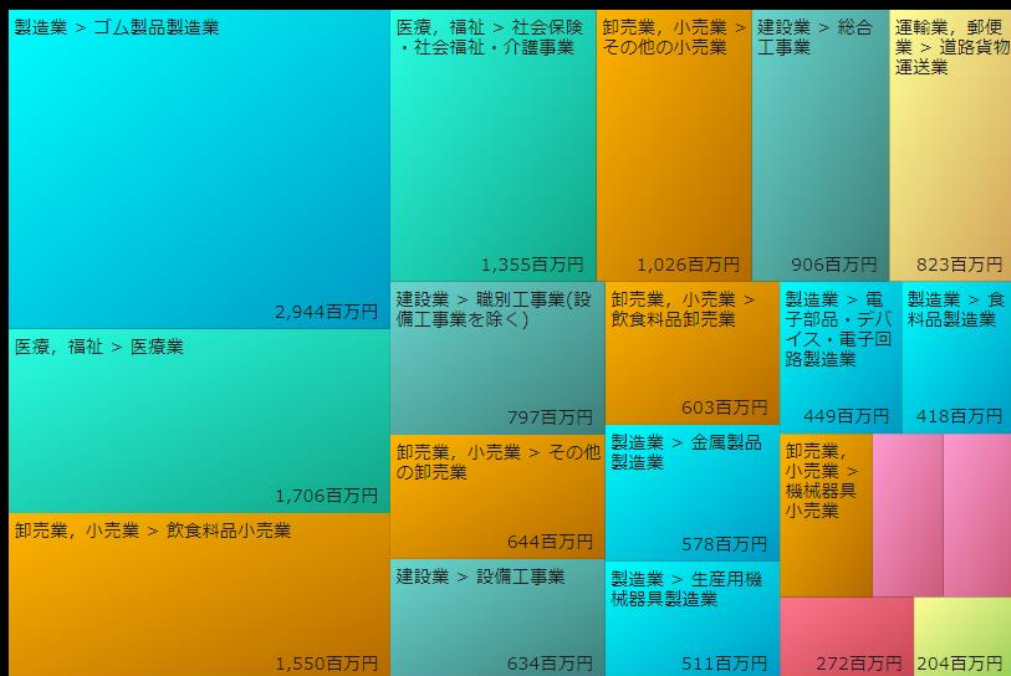
付加価値額(企業単位) : 23,286百万円



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 5,644百万円

2016年 付加価値額(企業単位) 中分類 宮城県美里町

付加価値額(企業単位) : 23,286百万円



上図以外の付加価値額(企業単位)の合算 : 6,940百万円

